

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	運動療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にて運動療法治療経験39年有する	担当	河元 岩男	授業方法	講義・実習	単位数	1
到達目標	1、維持目的の関節可動域運動の理論を理解し実践できる。 2、関節モビライゼーションの理論を理解し実践できる。 3、筋ストレッチング・マッサージの理論を理解し実践できる。 4、筋力維持増強運動の理論を理解し実践できる。 5、筋持久力、全身持久力の理論を理解し実践できる。			評価方法			
授業概要	前期において、運動療法の基礎理論を学習した。この授業では、関節可動域訓練・個別筋筋伸張運動・筋力増強訓練・持久力訓練・協調訓練の実技を習得する			期末試験 60% 実技テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	運動療法 I 徒手理学療法(四肢編)	使用器材	セラバンド、鉄アレイ、エルゴメトリー				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	肩関節1 機能解剖学と運動 関節モビライゼーション						
第2週	肩関節2 ストレッチング、マッサージ						
第3週	肩関節3 筋カトレーニング						
第4週	肩関節まとめ 授業アンケート1						
第5週	肘関節・前腕 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第6週	手関節・手指 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第7週	肘関節・前腕、手関節・手指 まとめ 授業アンケート2						
第8週	股関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第9週	股関節2 ストレッチング、マッサージ						
第10週	膝関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第11週	膝関節2 ストレッチング、マッサージ						
第12週	足関節1 機能解剖と運動 関節モビライゼーション						
第13週	足関節2 ストレッチング、マッサージ						
第14週	下肢の筋カトレーニング						
第15週	下肢のまとめ 授業アンケート3						
授業外学習指示等	項目の内容に沿って解剖学、生理学、運動学を復習すること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	内部障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	循環器障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。代謝障害の重症度評価と理学療法評価およびアプローチを説明することができる。			評価方法			
授業概要	循環器障害・代謝障害を系統別に分類し、障害を引き起こす疾患の成り立ちを解説した上で理学療法の基礎的なガイドラインを提示し、基本的な治療方法を実践する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ビジュアルレクチャー内部障害理学療法学 イメカラ イメージするカラダのしくみ循環器	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	循環器系の解剖学・生理学						
第2週	循環器系の生理学						
第3週	循環不全の病態と呼吸器疾患 (心不全の病態)						
第4週	循環不全の病態 (心筋虚血の病態)						
第5週	循環不全の病態 大動脈疾患・閉塞性動脈硬化症の病態)						
第6週	循環不全の病態 (DVTの病態)						
第7週	循環器理学療法のための評価(I)						
第8週	循環器理学療法のための評価(II)						
第9週	循環器理学療法基本手技(運動処方)						
第10週	循環器理学療法基本手技(1次救命処置)						
第11週	代謝疾患(糖尿病)総論						
第12週	代謝疾患(糖尿病)の生理学						
第13週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法評価						
第14週	代謝疾患(糖尿病)の理学療法						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	この授業は、解剖学、生理学、運動学、運動生理学、内科学、病理学などを基盤に行われるものであり、学習の準備としては毎回の授業に合わせてこれらの科目を十分復習をしてから講義に臨むこと。(60分)						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	筋骨格障害系理学療法実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	山本 裕晃	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1. 各種骨関節障害について理解し、その特徴を説明することができる。 2. 各種骨関節障害に対する適切な理学療法評価項目を説明することができる。 3. 各種骨関節障害に対する適切な介入プログラムを説明することができる。 4. 各種骨関節障害に対するリスク管理を説明することができる。			評価方法			
授業概要	疾患別理学療法について、評価、問題点抽出、目標設定、プログラム作成及び運動療法、注意点等について学習する。 成績評価は授業ごとの要点をまとめた前回授業範囲の小テスト20%・期末テスト80%の総合により評価する。			期末試験 80% 小テスト20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	ビジュアル実践リハ整形外科リハビリテーション	使用器材	液晶プロジェクター				
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	股関節及び大腿の骨折 評価と治療 ①						
第2週	股関節及び大腿の骨折 評価と治療 ②						
第3週	変形性股関節症・股関節脱臼 評価と治療 ①						
第4週	変形性股関節症・股関節脱臼 評価と治療 ②						
第5週	変形性膝関節症 評価と治療 ①						
第6週	変形性膝関節症 評価と治療 ②						
第7週	膝靭帯損傷 半月板損傷 評価と治療 ①						
第8週	膝靭帯損傷 半月板損傷 評価と治療 ②						
第9週	下腿骨骨折 足関節周囲の骨折 評価と治療 ①						
第10週	下腿骨骨折 足関節周囲の骨折 評価と治療 ②						
第11週	膝関節靭帯と半月板の損傷 総論						
第12週	膝関節靭帯と半月板の損傷 評価と治療						
第13週	足部の捻挫・アキレス腱断裂 評価と治療						
第14週	リウマチ 評価と治療①						
第15週	リウマチ 評価と治療②						
授業外学習指示等	①関節に生じやすい整形外科的疾患について、機能解剖と関連して何故生じやすいのか述べられること。 ②関節ごとに必要な理学療法評価と効果的な理学療法について述べられること。 ③評価結果が示す病理変化や機能障害について病期に応じて適切な理学療法介入方法を述べられること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	日常生活活動学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院にてADL訓練指導18年有する	担当	安岡 武紀	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 各疾患でのADLでの問題点を抽出し、ADL訓練ができる。 2 起居動作や移動動作における問題点を動作観察・分析から説明できる。 3 適切な移乗介助ができる。			評価方法			
授業概要	日常生活活動(ADL)に関する実技の習得。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	日常生活活動学テキスト	使用器材	ベッド、車椅子、松葉杖、一本杖				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	基本動作について実技(寝返り動作:背臥位⇔腹臥位)						
第2週	基本動作について実技(背臥位からの座位への起き上がり動作)						
第3週	基本動作について実技(椅座位からの立ち上がり動作)						
第4週	基本動作について実技(床からの立ち上がり動作)						
第5週	歩行指導(杖歩行含む)						
第6週	ADLを支援する機器						
第7週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(片麻痺編)						
第8週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(パーキンソン病編)						
第9週	疾患別ADL指導:中枢神経・神経筋疾患患者のADL(頸髄・脊髄損傷編)						
第10週	疾患別ADL指導:関節リウマチ患者のADL						
第11週	疾患別ADL指導:大腿骨頸部骨折患者のADL						
第12週	疾患別ADL指導:変形性膝関節症・大腿切断患者のADL						
第13週	車イス動作実技(キャスター上げ含む)						
第14週	トランスファー実技全般						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	精神医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各精神疾患について特徴を理解し説明ができる。			評価方法			
授業概要	精神疾患について理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	精神神経疾患ビジュアルブック	使用器材	パソコン・DVD・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	認知症総論(精神機能と障害)						
第2週	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症						
第3週	ピック病・レビー小体型認知症						
第4週	てんかん						
第5週	アルコール依存症・アルコール以外の精神作用物質依存						
第6週	うつ病						
第7週	双曲性障害						
第8週	統合失調症						
第9週	不安症・強迫症						
第10週	急性ストレス反応・PTSD						
第11週	睡眠障害						
第12週	摂食障害						
第13週	パーソナリティー障害						
第14週	国家試験過去問1(精神医学分野)						
第15週	国家試験過去問2(精神医学分野)						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学実習Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院で検査・評価・手技療法の経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	評価の実際を実技を通して学ぶ。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。また、各障害に対する治療手技や方法を学ぶ。			実技試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法評価法・臨床実習とケーススタディ	使用器材	ティルトテーブル、検査器具一式				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	オリエンテーション、臨床実習とは						
第2週	臨床実習における評価と心構え、学生のあるべき態度						
第3週	レポートの書き方 ボトムアップ、トップダウン						
第4週	バイタル測定						
第5週	ティルトテーブル						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	整形外科的検査(腰椎及び下肢)						
第8週	整形外科的検査(上肢)						
第9週	協調性検査						
第10週	小テスト2(整形外科、協調性)、授業アンケート						
第11週	片麻痺機能検査(上田法 上肢)						
第12週	片麻痺機能検査(上田法 下肢)						
第13週	動作分析(寝返り、起き上がり)						
第14週	診療記録の書き方(SOAP)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	理学療法評価学Ⅱの応用になるので理論を事前に把握しておきましょう。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	物理療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	各種物理療法・各治療器の使用経験有り	担当	西山 栄一	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	物理療法機器を一人でも扱えるようになる。			評価方法 実技試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	各種物療機器の取り扱い方と実技を行い技法を習得する。						
教科書等	理学療法学テキスト 物理療法	使用器材	物理療法機器				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	温熱療法実技 ① ホットパック						
第2週	温熱療法実技 ② パラフィン						
第3週	温熱療法実技 ③ 極超短波						
第4週	温熱療法実技 ④ 超音波						
第5週	寒冷療法実技 アイスマッサージ						
第6週	小テスト1 授業アンケート						
第7週	光線療法実技 紫外線、赤外線、レーザー						
第8週	水治療法実技 ① 過流浴						
第9週	水治療法実技 ② ハバードタンク						
第10週	小テスト2 授業アンケート						
第11週	電気療法実技 ① 低周波						
第12週	電気療法実技 ② 干渉波						
第13週	牽引療法実技 頸椎、腰椎						
第14週	マッサージ実技 マッサージ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業ではより多く機械に触れ、臨床で扱えるようにしましょう。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法技術論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	機能評価・手技療法等の経験約39年	担当	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	解剖学・生理学・運動学・病理学等の基礎的知識に基づいて、関節運動学を勉強し、さらにそれを基に、特殊テクニックを習得する。			評価方法			
授業概要	1. 軟部組織モビライゼーションの理論と実際 2. 関節モビライゼーションの理論と実際 3. モーターコントロールの理論と実際			実技試験 50% 理論試験 50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	プリント、理学療法特殊テクニック	使用器材	スライド、ビデオ、DVD				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	関節運動学 その1		◎凹凸の法則、副運動、構成運動など				
第2週	関節運動学 その2		◎各関節(肩・肘・手・指)				
第3週	関節運動学 その3		◎各関節(股・膝・足指)				
第4週	小テスト1 授業アンケート						
第5週	関節モビライゼーション(上肢)		理論・実技				
第6週	関節モビライゼーション(下肢)		理論・実技				
第7週	関節モビライゼーション(脊柱)		理論・実技				
第8週	小テスト2 授業アンケート						
第9週	軟部組織モビライゼーション		理論				
第10週	軟部組織モビライゼーション(マッサージ)		理論・実技				
第11週	軟部組織モビライゼーション(ストレッチング上肢)		理論・実技				
第12週	軟部組織モビライゼーション(ストレッチング下肢、体幹)		理論・実技				
第13週	モーターコントロール		理論				
第14週	モーターコントロール		実技				
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習として教科書を見ておくことが大切。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	生活環境論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	家屋改修を含めた生活環境調整経験有り	担当	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 疾患や障害と生活環境の関係を理解する。 2 住環境の必要性や具体例を理解する 3 代表的な自助具や福祉機器について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションに関係が深い、生活環境について学ぶ。 理学療法士として専門的な視点で、対象者を取り巻く生活環境をどのように捉えるのかを学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学科テキスト 生活環境論	使用器材					
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	生活環境論 総論						
第2週	生活環境整備の留意点						
第3週	国際障害分類(ICIDH)						
第4週	国際生活機能分類(ICF)						
第5週	バリアフリーの関連諸制度						
第6週	ノーマライゼーション						
第7週	ユニバーサルデザイン						
第8週	住環境 意義						
第9週	住環境 流れと注意点						
第10週	住環境 整備対策						
第11週	福祉用具 種類と機能						
第12週	福祉用具 法律面・制度面						
第13週	事例検討 住環境						
第14週	事例検討 福祉用具						
第15週	国家試験問題解説						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	中枢神経障害系理学療法学実習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	中枢神経疾患に対する理学療法経験39年	担当	小倉 信作	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	中枢神経障害疾患群の病態を理解したうえで、理学療法評価の実施、治療プログラム立案及び実施を行えるようになることを目標とする。			評価方法			
授業概要	中枢神経障害疾患群の病態の理解とこれに対する理学療法の基本事項を理解させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	中枢神経障害系理学療法学テキスト	使用器材					
週	授業項目 内容					実施結果	
第1週	運動失調とは						
第2週	小脳性運動失調の理学療法						
第3週	小脳性運動失調の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第4週	パーキンソン病とは						
第5週	パーキンソン病の理学療法						
第6週	パーキンソン病の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第7週	頭部障害、低酸素性脳症						
第8週	多発性硬化症 筋委縮性側索硬化症						
第9週	脊髄損傷の原因とその障害像						
第10週	自律神経と脊髄損傷の随伴・合併症						
第11週	脊髄損傷の評価						
第12週	四肢麻痺の理学療法						
第13週	対麻痺の理学療法						
第14週	対麻痺の理学療法 症例の提示とロールプレイ						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	学習課題をノートにまとめる						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	発達障害系理学療法学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	現在心身障害児施設に勤務中	担当	小倉 秋奈	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 正常発達、反射の理解や流れを把握し、述べることができる。 2 各疾患の特徴を理解し、リハビリについて知識を深められる。 3 「小児理学療法とは何か」を理解することができる。			評価方法			
授業概要	発達障害について、総合的、体系的に学習する。 正常児の発達を学習した後、運動発達障害児について学習する。 小児の疾患の特徴を理解し、理学療法を実施する上で必要となる 評価介入の概要と構成要素を学習する。			期末試験 100%以上 (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法学テキスト こどもの理学療法	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実 施 結 果	
第1週	オリエンテーション、正常姿勢反射と運動の発達(1)、胎児の発達						
第2週	正常姿勢反射と運動の発達(2)						
第3週	正常姿勢反射と運動の発達(3)						
第4週	正常姿勢反射と運動の発達(4)						
第5週	正常姿勢反射と運動の発達(5)						
第6週	発達障害の運動療法						
第7週	理学療法評価						
第8週	脳性麻痺 その1						
第9週	脳性麻痺 その2						
第10週	重症心身障害						
第11週	低体重出生児・ハイリスク児						
第12週	筋ジストロフィー						
第13週	二分脊椎、その他						
第14週	小児の装具						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	「小児のリハビリは難しい」という考えをまずはなくし、「子ども」の成長をまずは知ることから頑張っていきましょう。理解するには時間がかかりますが、楽しく「子ども(小児)」について学んでいきましょう。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域在宅理学療法演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	地域リハビリテーションで学んだ知識をもとに、様々な課題について総合的な理解を求める。			評価方法			
授業概要	1.介護予防についての理学療法を説明できる。 2.地域理学療法での評価法を説明できる。 3.在宅での理学療法やレクリエーションの方法を説明できる			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	高齢者リハビリテーション実践マニュアル	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	地域リハオリエンテーション						
第2週	リハビリテーション実施計画書の概要						
第3週	介護予防のための心身機能評価						
第4週	フレイル・ロコモティブシンドローム・サルコペニアに関する評価						
第5週	地域高齢者を対象とした運動機能評価を実施する						
第6週	介護予防のための運動プログラムの指導を体験する						
第7週	地域リハでの必要な介護技術の体験(トランスファー・ポジショニング等)						
第8週	在宅高齢者に対する訪問リハビリテーション事例についての演習						
第9週	地域リハの前半復習						
第10週	地域リハでの評価・治療・体操・レクリエーションの演習①						
第11週	地域リハでの評価・治療・体操・レクリエーションの演習②						
第12週	地域リハでの課題に対するグループディスカッション①、グループワーク①						
第13週	地域リハでの課題に対するグループディスカッション②、グループワーク②						
第14週	各班でのグループワーク プレゼンテーション・総括						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べる。グループワークにきちんと参加すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科（昼間部）2年	科目名	救急救命学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	生命倫理と医の倫理(インフォームドコンセントを含む)の基本的考え方を理解する。地域における救急救命士の役割を理解し、メディカルコントロール体制下における救急現場、搬送過程における救急医療及び災害医療についての知識を系統的に習得する。また、救急救命処置に係る医療事故対策について理解する			評価方法 期末試験 60% 小テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
授業概要	救急救命について理解する。						
教科書等	救急救命士標準テキスト改訂第10版	使用器材	スライド、ビデオ、DVD				
週	授 業 項 目 内 容			実 施 結 果			
第1週	総論	処置の目的と意義					
第2週	気道確保	手動的気道確保 エアウェイを用いた気道確保					
第3週	吸引	吸引の目的、適応、方法と手順					
第4週	酸素投与	酸素投与の目的、適応、方法と手順 酸素投与について理解する。					
第5週	人工呼吸	目的、適応、方法と手順 人工呼吸について理解する。					
第6週	胸骨圧迫	目的、適応、方法と手順 胸骨圧迫について理解する。					
第7週	除細動器	種類と構造 目的、適応、方法と手順 除細動について理解する。					
第8週	静脈路確保と輸液	目的、適応、方法と手順 静脈路確保について理解する。					
第9週	薬剤投与（アドレナリン投与）	目的、適応、方法と手順 薬剤投与について理解する。					
第10週	自己注射用 アドレナリン	目的、適応、方法と手順 アドレナリン自己注射について理解する。					
第11週	ブドウ糖投与	目的、適応、方法と手順 ブドウ糖投与について理解する。					
第12週	体位管理	目的、適応、方法と手順 体位管理について理解する。					
第13週	体位管理	保温、冷却 体位管理について理解する。					
第14週	止血	目的、適応、方法と手順 止血について理解する。					
第15週	固定	目的、適応、方法と手順 固定について理解する。					
授業外 学習指示等	予習としてDVDを見ておく事が大切。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	理学療法評価学演習	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院等にて評価学に該当する検査・測定等経験9年	担当	松本 和代	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	1 代表的な疾患に対して、障害像を理解し説明できる。 2 代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた理学療法評価を選択できる。 3 代表的な疾患に対して、障害像を踏まえた評価方法を理解し説明できる。 4 代表的な疾患に対して、評価結果から問題点を抽出できる。			評価方法			
授業概要	中枢神経系、筋骨格系、内部、発達障害の機能評価の手段として必要な各種検査法について講義・実習するとともに、その検査結果をいかに統合し解釈して問題点の抽出や治療目標の設定を行うかを解説する。			実技試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材	ティルトテーブル、検査器具一式				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	理学療法評価学 総論						
第2週	レポートの書き方 ボトムアップとトップダウン						
第3週	臨床評価プランニング実践 脳血管疾患						
第4週	臨床評価プランニング実践 大腿骨頸部・転子部骨折						
第5週	臨床評価プランニング実践 腰椎圧迫骨折						
第6週	臨床評価プランニング実践 変形性股関節症						
第7週	臨床評価プランニング実践 変形性膝関節症						
第8週	臨床評価プランニング実践 パーキンソン病						
第9週	臨床評価プランニング実践 脊髄損傷						
第10週	臨床評価プランニング実践 頸髄損傷						
第11週	臨床評価プランニング実践 切断						
第12週	臨床評価プランニング実践 運動失調						
第13週	診療記録の書き方(SOAP)						
第14週	高頻度利用評価指標ガイド①						
第15週	高頻度利用評価指標ガイド②						
授業外学習指示等	復習は、授業で実施した内容の重点事項を中心に振り返ること。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	客観的臨床能力演習	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験		担当	松本 和代	授業方法	演習	単位数	2
到達目標	今までの授業の集大成とし、一連の復習を行う			評価方法			
授業概要	臨床実習を控えた学生に、知識・技能・態度の3領域の再学習を行う。臨床で遭遇するであろう事象を繰り返し学習し、演習する事によって臨床実習を実り多きものにする事をねらいとする。			実技テスト 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材					
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週 (2コマ)	客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination OSCE)の概要 動作のとらえ方						
第2週 (2コマ)	標準予防策(手洗い) ホットパック 三角布装着 装具の装着 車椅子駆動介助						
第3週 (2コマ)	療法士面接 バイタルチェック						
第4週 (2コマ)	腱反射 病的反射(上肢・下肢)						
第5週 (2コマ)	関節可動域測定(上肢・下肢)						
第6週 (2コマ)	徒手筋力検査法(上肢・下肢)						
第7週 (2コマ)	感覚検査 形態測定						
第8週 (2コマ)	ベッドからの起き上がり(分析・中等度の誘導補助)						
第9週 (2コマ)	立ち上がり動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第10週 (2コマ)	移乗動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第11週 (2コマ)	トイレ動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第12週 (2コマ)	着衣動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第13週 (2コマ)	入浴動作(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第14週 (2コマ)	歩行(分析・中等度の誘導補助・最大の誘導補助)						
第15週 (2コマ)	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	理学療法学科 2年	科目名	地域リハビリテーション学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	介護老人保健施設、訪問リハの経験有り	担当	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	地域リハビリテーションにおいて、介護保険の仕組みや理学療法士の役割や仕事について説明ができる。			評価方法			
授業概要	1 地域リハビリテーションとは何かを理解し、介護保険制度の知識を深める。 2 地域リハビリテーションに関する様々な制度を理解する。 3 高齢者の特徴を理解する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	地域リハビリテーション学テキスト	使用器材	パソコン・配布資料				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	地域リハビリテーション学総論						
第2週	地域リハビリテーションの考え方						
第3週	介護保険制度下のリハビリテーション						
第4週	介護保険サービス概論						
第5週	地域包括ケアシステムの中での理学療法士の役割						
第6週	地域支援事業に中での理学療法士の役割						
第7週	介護保険サービス下での理学療法士の役割						
第8週	介護老人福祉施設での理学療法士の役割						
第9週	介護老人保健施設での理学療法士の役割						
第10週	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第11週	通所リハビリテーションでの理学療法士の役割						
第12週	通所介護での理学療法士の役割						
第13週	理学療法士が考える施設における体操・レクリエーションについて						
第14週	国試対策(地域リハビリテーション分野)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	事前に教科書を読み、専門用語等ノートにピックアップし調べること。						